

第 6 回 協力会社協働による作業所生産性向上策及び創意工夫策の応募要領について

作業所生産性向上委員会

● 目的・概要

作業所の生産性を向上させるには、協力会社との協働による作業所独自のアイデアをもとに具現化した取組みを情報収集し、会社全体に水平展開することが非常に有効です。

そこで引続き、第 6 回の優良な取組みの募集を開始します。応募要項は以下のとおりです。日頃の業務で実施してきた工夫改善が会社全体に広く浸透するよう、積極的な応募をお願いいたします。

===== 応 募 要 項 =====

● 応募方法

○生産性向上策コース

・別紙の生産性向上策実施書を下記に基づき、必ず協力会社と協働とし作業所単位で作成して下さい。

⇒当初の計画や従来のやり方から、協力会社との協働による工夫改善（省力化、省人化、ICT 活用等）により、作業量や作業時間の削減（＝工期短縮）、費用等の削減（＝コスト削減）が実現した取組み

○創意工夫策コース

・別紙の創意工夫策実施書を下記に基づき、必ず協力会社と協働とし作業所単位で作成して下さい。

⇒当初の計画や従来のやり方から、協力会社との協働による創意工夫により一定の効果（作業性向上、品質向上、安全性向上、環境面向上など）が実現した取組み

※なお、作業所単位での応募数には制限はありませんので、複数の応募が可能です。

※実施書に追加したい詳細説明資料は、A 4 又は A 3 サイズ 5 枚までを上限とします。

※データ容量合計は 3 M 程度までとしてください（詳細説明資料含む）。

※技術発表会応募策の内容と類似した応募に関しては、賞から除外の場合がございます。

※第 1 回から第 5 回応募策の内容と類似（製品が同じ等）した応募に関しては、賞から除外の場合がございますので、以下の第 1 回から第 5 回応募策をご確認ください。

・生産性向上策(第 1 ～ 5 回) : https://www.asanuma.co.jp/kyouryoku/documents/6k_1.pdf

・創意工夫策(第 1 ～ 5 回) : https://www.asanuma.co.jp/kyouryoku/documents/6k_2.pdf

● 応募先

対象作業所	所属	応募先
建築作業所	大阪本店管轄	大阪本店建築部品質管理室 森永 照夫
	東京本店管轄	東京本店建築部品質管理室 山内 衛
土木作業所	西日本管轄	土木事業本部企画部 森山 保彦
	東日本管轄	土木事業本部企画部 栗栖 寛

● 問合せ先 : < 事務局 : 技術研究所 立松 e-mail: tatematsu-kazuhiko@asanuma.co.jp >

● 報奨金

各賞の名称	想定数量	報奨金(単位:円)	発表
社長賞(生産性向上策)	2編	200,000	○
優秀賞(生産性向上策)	2編	100,000	○
敢闘賞(生産性向上策)	8編	60,000	—
参加賞(生産性向上策)	50編	20,000	—
参加賞(創意工夫策)	50編	6,000	—

※社長賞及び優秀賞は表彰式典において、発表していただきます。

※報奨金は、作業所：協力会社＝50：50で配分します。

● 選考方法

○参加賞：応募いただいた生産性向上策実施書及び創意工夫策実施書は、作業所生産性向上ワーキングの応募先窓口および事務局が審査・選定する。

○社長賞・優秀賞・敢闘賞：参加賞該当の生産性向上策実施書について、社員投票を実施し、投票結果を考慮の上、

5つの指標：①協力会社との協働度合い

：②実施策効果の大きさ

: ③実施策効果根拠の妥当性

：④実施策の汎用性

：⑤実施策の新規性・独自性

をもとに、作業所生産性向上ワーキングで審査した選考案を、作業所生産性向上委員会で審査し、最終的に経営会議で各賞を決定します。

● 応募期間等スケジュール

○応募期間：2023.10.2～2024.6.30

○審査選考：2024.7.1 ～2024.9.30（社員投票は7月～8月に実施予定）

○第6回表彰式典及び発表会：2024.10開催予定

○第7回応募期間：2024.10.1～2025.6.30

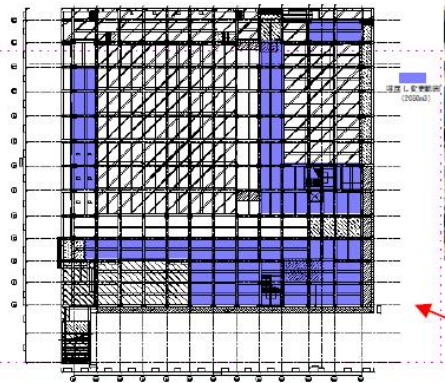
項 目	期 間	2023年度										2024年度												2025年度				
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6			
第5回表彰式典・発表会	2023.10.27				★																							
第6回応募期間	2023.10.2～2024.6.30																											
審査選考(社員投票含む)	2024.7.1～2024.9.30																											
第6回表彰式典・発表会	2024.10.開催予定																★											
第7回応募期間	2024.10.1～2025.6.30																											

◆ 参考

作業所生産性向上委員会	所属	氏名
委員長	建築事業本部長	藤沢 正宏
副委員長	建築事業本部副本部長	高見 錦一
	土木事業本部副本部長	大内 孝二
委員	弥生会(吉田工務店)	吉田 泰亘
	弥生会(飛田鉄筋工業)	飛田 良樹
	大阪副本店長(施工)	小松 敬
	大阪副本店長(営業)	湊田 武嗣
	東京副本店長(施工)	小田嶋 勝利
	東京副本店長(営業)	三宅 浩一
	土木事業本部副本部長	寺井 到
事務局	社長室 技術研究所・企画部	石原 誠一郎・立松 和彦 ・舟戸 教允・幣守 健 ・吉川 裕人・杉下 健

作業所生産性向上ワーキング	所属	氏名
主査	社長室 技術研究所 所長	石原 誠一郎
委員	弥生会(第五建設)	桒田 剛
	弥生会(池田工業)	池田 和法
	大阪建築部長	堀江 雄次
	東京建築部長	佐藤 健郎
	大阪土木部長	浅井 威臣
	東京土木部長	鶴尾 章吾
	大阪コスト管理室購買部長	藤田 忠幸
	東京コスト管理室購買部長	坂本 洋光
	大阪土木購買GL	横江 慶二
	東京土木購買GL	村松 一彦
委員 兼 応募先窓口	大阪建築品質管理室上席	森永 照夫
	東京建築品質管理室 室長	山内 衛
	土木事業本部企画部部長(西)	森山 保彦
	土木事業本部技術設計第2 GL(東)	栗栖 寛
事務局	社長室 技術研究所・企画部	立松 和彦・舟戸 教允 ・幣守 健・吉川 裕人 ・杉下 健

◆生産性向上策コース【2024年度 実施書記入例】

生産性向上策 実施書	①タイトル(テーマ名)		
	基礎埋戻しの工法変更による工期短縮および作業効率アップ		
②作業所名		③作業所職員名	
○△◇体育館新築工事 TEL: 0※-※※※※-※※※※		作業所 フリガナ アサヌマ ジロウ 職員名: 浅沼 二郎	社員番号: 123456
④協力会社名および担当者名			
フリガナ 会社名: カブシキガイシャ ホシシカクマルコムテン (株)★◇○工務店	フリガナ 担当者: ヤマダ タロウ 山田 太郎	職種: 型枠大工	
⑤問題点または従来のやり方		⑥改善案(協力会社との協働の経緯も含めた新しいやり方)	
当現場は南北に80m東西に76mと広い上大半が基礎埋戻しとなっている。土砂の運搬、仮設通路を考慮すると工程にも影響および雨天作業ができない為、他方法を検討した。 ■当初の計画 ・基礎高約2,000 ・埋戻し→碎石→捨CT→防湿シート→PF板		広い範囲の埋戻し作業となり、当初想定していた工程より日数がかかることが判明した。掘削土では数量が賄われない為、購入土となる。そのため、協力会社である★◇○工務店と協議、検討を実施し、工程・予算的な所を考慮してピットワーク型枠を採用する計画とした。 ■変更の計画 ・基礎高約2,000 ・埋戻し(ベースまで)→ピットワーク型枠 協力会社との協働の経緯を必ず記入してください。	
		  実施書に、図面や写真を貼り付けるなど見やすく表現して下さい。	
⑦実施後の実際の効果および比較		⑧効果金額	
【工程面】 約2,050㎡の埋戻しを中止することで2週間の工期短縮 【品質面】 重機の乗入による地中梁への荷重、差筋の曲がり等がなく効果的である 【コスト面】 右記に記載		・A) 埋戻し: 2,050㎡x2,800円=5,740,000円減 ・B) 碎石: 70㎡x2,800円=196,000円減 ・C) 断熱材: 1,200㎡x1,050円=1,260,000円減 ・D) ピットワーク(材): 1,200㎡x1,000円=1,200,000円増 ・E) ピットワーク(工): 1,200㎡x2,500円=3,000,000円増 合計: A+B+C-D-E=2,996,000円減 工期短縮: 14日間	
⑨作業所長確認欄		作業所生産性向上ワーキング使用欄	
所長名: 浅沼 一郎	受付日:	本策実施による効果金額、及び、工期短縮日数合計を記入してください。	
確認日: 2022 /4 /12	受付者:		
☒ 応募可 ☐ 応募不可	☐ 参加賞 ☐ 採用 ☐ 不採用	カタログや図面など詳細資料を添付していただく事もできます。	

※1: ①～⑧すべての欄に記入し、⑨作業所長に提出して(作業所長から)事務局へ提出してください。

※2: 詳細説明資料を添付する場合は、A4又はA3サイズで添付してください。(5枚まで)(データ容量合計3M程度まで(実施書含む))

◆創意工夫策コース 【2024年度 実施書記入例】

創意工夫策 実施書	①タイトル(テーマ名)		
	GL工法に代わる、スクリーパッキング工法		
②作業所名		③作業所職員名	
○△◇新築工事		作業所	フリガナ アサヌマ ジロウ 社員番号:
TEL:	0※-※※※※-※※※※	職員名:	浅沼 二郎 123456
④協力会社名および担当者名			
フリガナ ホシシカクマルコウギョウカブシキガイシャ	フリガナ ヤマダ タロウ		
会社名: ★◇○工業株式会社	担当者: 山田 太郎	職種:	内装工
⑤問題点または従来のやり方		⑥創意工夫案(協力会社との協働の経緯も含めた新しいやり方)	
【GL工法】:従来のやり方 ・GL工法とは、GLボンドによるコンクリート面・断熱面への直張り工法のこと、軽量鉄骨下地(LGS)や木軸組み立てが不要となり、仕上がり寸法を少なくできる(20mm~25mmの薄ふかしで済む) 【GL工法】:作業手順 ①内装仕上げ墨出し ②GLボンド接着面の清掃 ③プライマーの塗布 ④GLボンドの混練、練り付け ⑤石膏ボードの張り付け ⑥養生、仕上げ 【GL工法】:施工上の注意点(デメリット) ・GLボンド接着面の下地の清掃状況が悪い、プライマー塗布が少ない、GLボンド塗り付けピッチ不良等の施工手順を順守しないと、施工後に剥がれる可能性があり、瑕疵に繋がる恐れがある。また、施工できる職人が少なく人手不足になりがちである。施工精度についても垂直・水平を確認しなければならない為、施工が安易ではない点があげられる。		【スクリーパッキング工法】:新しいやり方(メリット) ・本現場で<u>スクリーパッキング工法を採用した経緯として、GL工法を施工できる職人が不足していることがあり、協力会社である★◇○工業に相談したところ、「スクリーパッキング工法」をご提案いただいた。</u>同工法は、GL工法と違い、躯体の不陸調整をスクリーパッキングのレベル調整によって吸収出来るため垂直精度の高い内装下地を施工できる。ウレタン吹付断熱施工前に設置が可能で、従来の木レンガ等の施工手間も削減できる。また、サッシ廻りなどの内装下地が組みにくい箇所、梁下などの懐寸法に余裕のない場所でも施工が可能である点と、内装壁下地だけでなく、様々な内装工事の下地調整材に使用できる。GL工法と比べ、練り水を使用しないことから仕上げ材表面にカビが発生しにくくなる。下地調整代も最小で10mm~最大70mmまでのフカシが可能である。接着材で張り付けるだけの為、幅広い職種の作業員が施工可能である。 【スクリーパッキング工法】:作業手順 ①スクリーパッキング割付図を元に墨出し ②接着材(専用)を塗布したスクリーパッキングの圧着固定 ③接着材硬化後、レベル調整 ※断熱ウレタン吹付け面の場合、専用の養生シール貼り ④石膏ボードの張り付け	
⑦実施後の効果等			
【施工後の評価】 ・GL工法と比べ施工手間が減り、かつ高精度の下地が確保できた点が工程短縮に大きく寄与した。垂直精度の品質問題についても、専用ドライバーでの出入り調整が容易な為、手戻り・手直し等が大きく減った。 ・マンション工事の様に、躯体から仕上げ面までの寸法がシビアなケースでも、必要最低限の寸法で下地設定が可能であり、GL工法に限らずLGSや木下地の代用としても使用できる。 ・断熱ウレタン吹付面にも使用が可能で、木レンガや胴縁での施工と違い、専用の養生シールを剥がせばスクリーパッキング自体に付着している断熱ウレタンを撤去できる点も便利な点である。スクリーパッキング自体が断熱ウレタン吹付け厚さの目安となる為、当該厚さ目視確認としても有効であった。			
⑧作業所長確認欄		作業所生産性向上ワーキング使用欄	
所長名: 浅沼 一郎	受付日:		
確認日: 2022 / 4 / 12	受付者:	カタログや図面など詳細資料を添付していただく事もできます。	
■応募可	参加賞		
□応募不可	□採用 □不採用		

※1: ①~⑦すべての欄に記入し、⑧作業所長に提出して(作業所長から)事務局へ提出してください。

※2: 詳細説明資料を添付する場合は、A4又はA3サイズで添付してください。(5枚まで)(データ容量合計3M程度まで(実施書含む))